

令和3年度 第3回総合教育会議議事概要

令和3年12月17日(金)に令和3年度 第3回総合教育会議が開催されました。

第3回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

令和3年度 第3回福知山市総合教育会議 議事概要

日 時 令和3年12月17日(金)

午後1時10分～

場 所 ハピネスふくちやま 3階
女性活動支援ルーム

■出席者(敬称略)

教育長 端野 学

教育委員 塩見 佳扶子、和田 大顕、加藤 由美、織田 信夫

市長 大橋 一夫

教育部長、教育委員会事務局理事、教育総務課長、学校教育課長、学校教育課担当課長、生涯学習課長、学校給食センター所長、市長公室長、経営戦略課長

■開会 大橋市長挨拶

今年10月に開催した第2回総合教育会議では、今年度改訂となる本市教育大綱の内容について具体的に御協議いただいた。近年のAIやICTといった情報技術の急速な進歩や、新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」など、日々大きく変わりゆく社会の中で、市と教育委員会が連携を深め、「教育のまち福知山」の更なる発展に向け取り組むために、本市ならではの教育大綱を策定することが非常に重要である。

今回は、教育大綱に関して最終の協議の場となる。前回御協議いただいた内容を踏まえて、改めて作成した教育大綱の案について皆様から御意見を賜り、教育大綱の改訂へと進めて参りたい。

■協議事項

(1)福知山市教育大綱の改訂について

大橋市長

今年10月に開催した前回の第3回総合教育会議において、教育大綱の素案をお示しし、教育委員の皆様から御意見をいただいた。その御意見を受け、再度事務局で案を作成したので、本日はその内容について御確認いただき、教育大綱の改訂へと進めたい。

それでは、事務局より説明する。

事務局

【資料 福知山市教育大綱(案)】をもとに、案の内容について説明

大橋市長

案について、委員の皆様から御質問や御意見などあればお願いしたい。

端野教育長

P. 8の【③生涯学習の推進】において、以前意見として挙がっていた一人暮らしの高齢者の方への取組というのは、【○主な取組】に記載されている「シニア人材を対象としたリカレント教育」が当てはまるのか。

事務局

シニア人材がいくつになっても、いくつからでも、生きがいでなくスキルも身につけられるという内容をここ(P. 8)に盛り込んでいる。何かに取り組むことが活力に繋がり、学びの場に出ることで人とつながり、社会とつながることになるので、そういった観点からも包含できればと思う。

和田委員

事務局には、教育大綱の検討の場を何度もつくっていただいたことを感謝する。今回の教育大綱は、各教育委員の意見も十分に聞きながら市長が策定する、初めての大綱となる。

「まちづくり構想福知山」については、住居環境や生活基盤といったハード面と、生きがいや心を豊かにするハート面、その両面について書かれた最上位計画になることをうれしく思う。

「まちづくり構想福知山」と、この「福知山市教育大綱」が策定されれば、市長部局と教育委員会と方向性を一層共有しながら教育の推進に取り組んでいきたい。

塩見委員

それぞれの立場から教育大綱の内容に対して意見を申し上げ、今回の案まで整理していただき、感謝する。

整理していただいた中で、以前の案は【これまでの取組】という項目があり、非常に詳細に書かれていたため、簡潔にしてはどうかという意見を申し上げた。しかし、今回の案はその項目が無くなり、これまでの成果の記載が無いように思う。これまでの取組の成果を踏まえた上で方針を作成したほうが建設的ではないか。

事務局

前回の教育大綱は、総合計画「未来創造 福知山」から関連施策を抜粋し作成したので、「未来創造 福知山」と合わせて整理をするものだと思う。

一方で、今回の教育大綱は前回と作り込み方が違い、教育委員の皆様にも何度も審議いただきながら策定している。これまでの取組については、一貫して取り組まれているため、これまでとこれからの取組を時系列で並べるのが難しいように思っている。次回教育大綱を改訂する5年後は、今回記載した主な取組について振り返り、整理することが必要だと思う。

塩見委員

教育大綱に関わり、お願いであるが、福知山駅の近くにあった「教育のまち福知山」という標柱がいつしか無くなっていた。「教育のまち福知山」という言葉は、教育大綱の中にもあるように、思いとして脈々と受け継がれてきた。今後予算化し、また標柱を設置してほしい。市民や市外の方が標柱を見上げて、一つの啓発になると思っている。

大橋市長

標柱が設置されていたことは承知している。何か経緯や教育委員会としての思いもあると思うので、そのあたりをすり合わせて、検討したい。

加藤委員

整理され、読みやすい教育大綱になったと思う。

これまでの取組については、各分野の【主な取組】の中に組み込まれているように理解した。

今後はこの教育大綱が具体的な施策に繋がっていくのではと思っている。この大綱がバイブルとしていつでもだれでも立ち返るものになり、施策・事業に繋がっていくような、福知山モデルの指針になればと思う。さらに施策や事業がきっちり評価されることを願う。

織田委員

各委員の意見を盛り込んでいただき、誰が読んでも分かりやすい内容になったと思う。我々も発言した意見の内容には責任をもち、押し進めていかなければならない。

和田委員

「まちづくり構想福知山」も「福知山市教育大綱」も棚や机の隅に置いてあることのないよう、いろんな場所で目につき、市民にも見て活用していただける冊子になるようお願いしたい。

大橋市長

本日の意見も踏まえ、教育大綱の改訂に向けた手続きを進めていく。引き続き、市長部局と教育委員会事務局相互が連携を密にし、教育行政の推進に対応していきたい。

事務局

今後のスケジュールについて説明する。

このあと、議会説明を行い、1月中旬～2月初旬にパブリックコメントを予定している。パブリックコメントの内容や大綱の反映について、別途、委員の皆様にご説明・報告をさせていただきます。

■閉会 端野教育長挨拶

新たに福知山市の教育大綱が策定され、その方向が示される。本日に至るまで様々な御意見をいただき、またそれを踏まえて案を作成していただいたことにお礼を申し上げます。

大綱の策定に向けては、福知山市が目指すひとづくりの方向性が示された。第1次から2次へ改訂され、時代・社会・背景も変わり、教育内容・指導方法も変わり、学校で働く人も変わる中で、人づくりは大きなテーマである。そういったことへの今後5年間の対応が示されたと思う。

本大綱では、「教育のまち福知山」、こだま教育、3ため(自分のために 人のために 社会のために 共に幸せを生きる人材の育成)、福知山市市民憲章、そしてFプラン(福知山市立学校教育内容充実推進プラン『響』プラン・F)について表現されている。そして、義務教育段階だけでなく就学前教育から、義務教育修了後、またその後の社会教育分野について、広く「教育」と表現してまとめられている。

まちづくりの基本は、人づくり。その基本は教育にあり、教育委員会の責任でもある。新たな大綱の作成により、教育委員会の責任もまた芽生えた。本棚にしまい込まれるのではなく、大いに活用され、世の中にも知らされ、5年間でくしゃくしゃになるように活用し、5年後にまた振り返り、策定する。そういった活用を期待したい。今後も市長部局と教育委員会で協力していきたい。

以上